

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム プランタンV 1F	評価実施年月日	H19.10.28
評価実施構成員氏名	桜井・尾形・西尾・鈴木・中時・佐藤・青柳・米澤・西山		
記録者氏名	桜井 吏	記録年月日	H19.11.7

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型に開けた施設を目指し、理念をいつでも見えるようにしている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	いつでも見えるところに掲示し、理念に基づいて仕事に取り組むように努力している。	○	理念の理解が不足しているところもあるが、職員と話し合い全員が理解できるように実践していきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念の趣旨を設舞している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方やボランティアの方が気軽に遊びに来ていただき、職員や入居者さんと談笑したりお茶を飲んだり楽しんでいただいたりしている。	○	いずれは囲碁や将棋といった、時間がかかる遊びも一緒に行っていただきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	北都中学校の行事に参加したり中学生が施設に交流にきてくれて、歌や音楽を披露してくれています。またレクリエーションにも積極的に参加していただいています。		積極的な声かけを行い他の施設や学校等との交流を図りたい
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今のところは行っていません	○	地域の情報収集をしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価を通して施設のあり方を見直し今後のケアに取り組んでいる</p>	○	自己評価を行っていくことで、自施設の見えなかったところや細かいところも見えてきたので、今後の改善につなげたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>介護支援専門員や町内会長、地域支援包括支援センターの方利用者の家族を交えて意見を交換している。まだサービスに生きてきていない。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市で運営している動物園に行き、無料で利用させていただき、職員と利用者が楽しい時間を過ごすことができた。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>系列の施設間で相談し、いつでも活用できるようになっている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>職員全体で虐待を防止する意識を持ち、言葉使いでもお互いに注意する。万が一疑わしき状況あれば、本人に事情を聞き改善させる。会社全体で虐待は絶対に許さない姿勢を見せている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>本人、家族が納得できるまで説明を行い、不安・疑問があればいつでも説明できるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者との接点を増やすように心がけている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>利用者の状況が家族の方が来設されたらその都度説明している。緊急事態があれば電話連絡や来設していただき報告・相談をしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談から意見不満等まで何かあれば、その都度対応し、十分な理解が得られるまで話し合いを進めています。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営に関する相談は、主任、施設長に聞き、今後に繁栄させる。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>通院や体調変化など必要に応じ職員を増やし、利用者の家族や要望にこたえる。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>会社の方針で、利殖希望の職員は希望を聞き入れるが、会社間での異動は原則として禁じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修に行く希望があれば研修時間に重ならないようにシフトを変更し、研修に集中できる環境を作っている。</p>	<p>○</p> <p>同じ職員が研修にいつていることが多いので、満遍なく職員を研修にいかせて上げたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>講演会や勉強会では積極的に名刺交換をして、他者の施設の現状などを意見交換している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>全体にミーティングを行ったり、職員の悩みを個別で直接聞いている。またなかの良い職員や主任に相談し自分で抱え込まないようにしている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>年に2回の昇給を検討し、該当者には相当の報酬になるように検討している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>不穩になったとき、他の方と離れた場所(個室)を設け、じっくりと話を聞く努力をし、問題解決を図る。</p>	<p>○</p> <p>継続していきます。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>訪問時に家族の悩みを受け止め、安心していただけるように考えています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に家族が何を望んでいるかを考え、自施設だけで対応できないときは関連会社と相談し最大限の介護ができるように努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	予定している行事、イベント等は決定したい説明し、理解していただきながら進行している。また、日々の会話や生活の中からのようなサービスを受けたいかをあらかじめ収集するようにしている。	○	より細かいサービスを提供できるように努めたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中でコミュニケーション多くとるように心がけながら、利用者の楽しかったことや大変だったことを聞かせていただいています。	○	継続していきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者が悩んでいることについて、職員で解決できないときは家族に連絡を取り解決できるように支援する。	○	継続していきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人が家族と話したいと望まれたときに、直接電話で話をしたり、職員が家族に本人の思いを伝える。	○	継続していきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人や家族の意思に任せている。	○	趣味や得意分野を今以上に引き出せるように支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	コミュニケーションをとりながら、利用者同士が意見交換したり、会話する環境ができている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も必要に応じ連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人別に傾聴し把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人にどのような生活を送ってきたかをリサーチし、本人にあったサービスを提供できるように努めている。	○	継続していきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタル計測、朝の挨拶などで少しの変化も見逃さないよう勤めている。	○	職員一人ひとりが仕事に対する意識をより高く持つように勤めたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の希望や課題を介護支援専門員や職員が利用者を中心に家族とともに連絡を取りながら意見を出し合い計画を作成する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	長期入院後、ADLの低下が見られるとき、職員、家族と計画を見直している。	○	もっと細かく利用者を見て必要に応じて早く見直していく
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や日誌を残し、情報を24時間途切れないようにしている。問題があれば介護計画の変更を作成する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホールに行けば家庭的な雰囲気があり家族も宿泊できるようにしている。	○	利用者の介護に細かく対応していけるようになりたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	外部のイベントの際はボランティアを依頼したり、高齢者文化祭への出展もしている。	○	他職種の方とも交流も持っていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホームに入所すると利用できる他の介護に限られてくるが、希望に沿った支援をしている。	○	他施設のケアマネとも話し合いも持っていきたい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	問題があれば会社間での話し合いを行っているが、他の意見として地域包括支援センターとは連絡は取っていない。	○	今後は地域包括支援センターとの連携を図り、意見や問題解決を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設に入所していただいた際には、近隣の提携病院にも診断していただき、継続して診察していただくよう提携している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の理解を深めるよう、ミーティングのなかで講習に行った職員に話をしてもらうようにしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当施設には看護師が不在のため、系列の施設の看護師に相談したり、状況が悪いときはきてもらったりしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	長期に入院になってしまうと、認知症レベルも上がってしまうことが多く、なるべく早期退院に向け医療機関と相談をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状態の変化や入院などになった際に施設の職員と家族で話し合い、その後の状態についても話し合いの場を持つようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向も聞き、病院での長期臥床を望まない方には、施設内でのターミナルケアも行える準備はしている。そして、医療行為が必要になった際には、往診して頂けるDr. を相談できる体制も整っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居者が重度の認知症でも職員と家族だけの意見で居室を移動しないようにしている。本人の意思や納得されたうえでお願いをしている。また住み替え時でも居間までに利用していたものも持ってきていただき、最大限なじみの環境に近づけるように努力している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>問題があれば施設長や主任に報告・相談し、注意・解決策を教える。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>会話だけではコミュニケーションの取れない方もいるが、状態を確認しながら本人の訴えを理解するように心がけている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>決められたスケジュールはあるが、それ以外の時間では自由に過ごされています。起床や就寝時間も決めてはならず、本人の希望を尊重している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容を利用し、その都度声かけをしたりしていますが、本人が望んだときに来てもらっている。</p>		<p>できるだけ本人の望む理容美容の店があれば今後は対応していきたい</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事中は、誤嚥の危険もあるので食事に集中していただきますが、終わった後の会話やふれあいなどの時間を取っている。</p>	○	<p>食後、すぐに昼に居室に帰ってしまう利用者が居るので、少しの時間は一緒にすごせるようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	アルコール依存症の方がいるので、お酒類は出していませんが、タバコに関しては時間を決めて喫煙を希望したときは支援しています。	○	継続していきます。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、リズムを確認する	○	水分摂取量も考慮し、定期的に声掛け介助を行う
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	介護の少ない方は入浴の希望があれば対応するようにしている。介護が必要な方は曜日を定め、週2回午後から入浴介護しています	○	本人の希望にそって入浴できるように努力します
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中気分転換を図りストレスをためず生活のリズムを作る	○	日中の活動を充実したものにしていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者に積極的に声かけをし、お盆拭きやタオルたたみをしていただいています		無理のないように継続できる事を多く見つけて支援しています
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談し、施設での預かり金より小遣いとして金額を決め、渡し管理しています。その旨もお小遣い帳に記入している		継続していきます

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日は近所への散歩や買い物ツアーを実施している		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園や買い物ツアーを組んで実践しています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話を付けたい人は付け、その他の方も「電話したい」との希望があれば施設の電話で対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	名前や住所なども来設者名簿に記入してもらい、楽しく過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の状況に応じ必要な際は家族の同意を得ています。但し、転倒や転落の危険がないときは、なるべくくしないように心がけています。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	表玄関は開放しているが、道路沿いの人通りの多い玄関は防犯や危険回避のため、止むを得ず施錠しているドアもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホールを出る時は声かけを行い、常にどこに居るか確認している	○	継続していきます
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居時には危険物は持参しないようにしていますが、本人の希望があれば施設で預かり使用時に渡しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の日々の状態を確認していきます。投薬時は本人確認を常に行う。	○	確認は必ず行う
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全員が理解しているとはいえないが、一部の職員は緊急時の対応を学んでいる	○	すべての職員が初期対応をできるように訓練したい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練の実施を検討中である。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に本人・家族に説明をしている。問題があればその都度連絡し改善に向かえるように話し合っている。	○	職員それぞれが発見した場合、上司に報告し、その後家族に連絡説明できる体制作りをしたい

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員同士、常に利用者の情報を提供し合い共有し、早期の対応ができるようにしています	○	継続していきます
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	当初、職員全体で服薬を管理しようと努めたが誤薬あったため、現在は主任が中心となり管理している。服薬後の変化の確認は口頭で職員に説明している	○	職員全体で理解していく様に努力します
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取に注意し、便秘がちな利用者にはその都度下腹部の軽いマッサージをしてあげる	○	定時の体操など、楽しみながら日課としてできるようにします
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	月に一度の口腔ケアを実践、義歯は洗浄剤を使用している。	○	家族の了解を得て月1回の歯科定期健診受診しています
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取表、食事表を記入し一人ひとりの状態を見ています	○	嗜好に応じた食事、おやつなど楽しく摂取できるように支援していきます
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種、手洗い・うがいの実践	○	食膳の手洗いや食後のうがい、衣類の清潔を保持するために努力していく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	仕入れを週に3回行い、新鮮なものを提供している。食洗機、熱湯消毒、食事の残り物を使わない。台所は塩素系洗剤で消毒している。		新鮮なうちにおいしく食べていただけるように工夫をする。食器等は定期的に消毒している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>表玄関にスロープを設置し、障害物を置かず広く使えるようにしている。椅子を置き靴の脱ぎ履き時に使用する。ホールから玄関を良く見えるようにしている</p>	○	玄関周りの掃除の徹底。花を置くなど落ち着いた空間を作る
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>共有空間は絶えず清掃を行い、清潔を保つようにしている。廊下には絵画を飾り、入居者が作ったちぎり絵も飾っている。</p>	○	季節により飾りを替え自宅に居るような雰囲気を作る
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>テーブル・椅子などの配置を考え、利用者同士で話しやすいように配置している</p>	○	ホール以外でも話ができるように椅子を置き、一人でも落ち着ける場所の工夫をする
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>使い慣れたものを居室でも利用してもらい安心できるように工夫している</p>	○	このまま継続し、もっと本人が落ち着き楽しめる場所にしたい。本人や家族の思想を尊重する
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>外気温に応じ、一日1回は空気の入替えを行っている</p>	○	温度計をチェックし、絶えず一定の温度を保てる様にする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>ホールが広いので運動できる環境があります。廊下にも手すりがあり、一人で安心して移動できるようにしています。</p>		筋力低下にホール、廊下を活かした歩行運動を定期的に行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	職員と一緒にいきその都度説明し、自信を失わないように注意しています。		何度も同じことを説明することもあるので毎回始めて話している感覚で説明するようにしたい。職員はイライラせずに説明できる心がけ。
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	駐車が広いので天気の良い日は外出し、日光浴ができる。二階のベランダから花火が見えるので鑑賞会を開き喜ばれている。		庭があれば野菜などを作りたい。時間に余裕をつくり、本人の希望に沿って日光浴できれば良い。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)